

こんぶくろ池通信

NPO 法人こんぶくろ池自然の森
Tel: 04-7132-8800
Fax: 04-7132-8806
Email: info@konbukuroike.com
URL: <http://www.konbukuroike.com>

2021年10月

第90号

主な予定

bayfm

公園紹介放送予定

10月13日(水)

8:57~8:59

柏の葉ウォーキング
グクラブ

10月31日(日)

10:00~16:00

T-KIDS シェアスクール・イベント

8月21日(土) 「夜の森の昆虫観察会」

徳永 さと子

1. 夜の森の昆虫観察会

8月21日(土)、今年もT-KIDS主催の『夜の森の昆虫観察会』が当公園を会場にして開催されました。当初1週間前の14日に予定されていましたが、荒天の為に実施できず、この日に延期となったものです。当日は夕方からコースの最終確認及び、ライトトラップの設営等の準備をして開会を待ちました。今年は、園内にスズメバチが多く見られた為、観察コースをどうするか、ライトトラップの場所は昨年と同じでよいのか、直前まで検討を重ねました。ほとんどのハチは、日が暮れてからは活動をしません、ハチの多いところで大勢が集まったり、煌々と灯りを点すのもどうかということで、観察は参加者を2グループに分けて少人数で二手から、またライトトラップの観察は、こんぶくろ池前に変更しました。発電機も調子よく作動し、集まってくださった会員の皆さんの手際のよい作業で、問題なく設営が完了しました。



集合時間の少し前から来園した参加者(小学3年生以上のお子さんとその保護者の皆さん10組)の皆さんは、受付と手指の消毒、検温を済ませ、管理棟前に集まりました。皆さん、とてもわくわくした表情です!

皆さんには虫かごの他に、懐中電灯のライトを覆う赤いセロハンと輪ゴムを配りました。これは、観察する昆虫を驚か

さないようにする為です。昆虫は赤い光を認識しないので、照らしても逃げません。また、暗がりでの観察や作業をする私たちの目にとっても、通常の明るい光よりは赤い光の方が周囲の暗さに順応しやすいと言われています。

ノジトラノオの草地周辺

草地の観察で、一番の狙いはカマキリでした。カマキリの目（複眼）は、夜になると光を多く取り入れようと黒く変化します。その様子が観察できたらと期待したのですが、この日はどうしたことか1匹も確認できず・・・。代わりに登場してくれたのはナナフシモドキでした。園内のあちらこちらで見つかり、初めは恐る恐る見ていた子ども達も「あ、またナナフシだ！」と、すっかり慣れた様子。仕舞には、観察に夢中になっていた女の子の頭の上にも、いつの間にか1匹のナナフシモドキが掴まっていました。暗闇にも目が慣れたころ、杭の上で休むウマオイの仲間や、葉陰で身を隠すキリギリスの仲間などが見つかりました。



ナナフシモドキ



ウオマイの仲間

弁天池～こんぶくろ池間の園路

森の中では、夕方鳴いていたヒグラシに代わって、アオマツムシの合唱が始まっていました。アオマツムシは中国からの帰化昆虫です。樹上で暮らす為、姿を目にすることはあまりありませんが、大きな鈴の音のような派手な鳴き声は、近年、私たちの暮らす住宅街でも、季節の変わり目を知らせる合図として、すっかりお馴染みとなりました。8月も後半に入り、セミの羽化も一段落してしまったのか、残念ながら遭遇することは叶いませんでした。用意した糖蜜を吹きかけた幹には、シタバガの仲間などが蜜を舐めに来ていましたが、参加者の興味を引くほどの数は観察できませんでした。他には、森の住人ザトウムシもあちこちでゆらゆらと散歩をしていました。ザトウムシの小さな小さなふたつの目、観察できたでしょうか？



アオマツムシ



シャクガの仲間



コシロシタバ



ザトウムシの仲間

ライトトラップ観察

当日はほぼ満月！通常ライトトラップには向かないのですが、空を覆う厚い雲が味方をしてくれました。ただ時期が遅かった為、やはりこちらも昆虫が少なめです。

一番目立ったのはコガネムシ類でした。中でも多かったのはアオドウガネだったでしょうか。これを、おっかなびっくり、何とか指にとまらせてみようと挑戦しているお子さんも。周囲にもドキドキ感が伝わって来ました。他には、セミ、カメムシ、ハチの仲間などが飛来しました。誘蛾灯（ブラックライト）も設置しましたが、思ったほど蛾の仲間は集まりませんでした。



アオドウガネ



クロスジアワフキムシ



チャバネアオカメムシ



ヒメハラナガツチバチ



カラスウリの花とニッポンマイマイ

ワタラセツリフネの草地周辺

ワタラセツリフネの草地周辺では、そろそろ終わりを迎えるカラスウリの花がまだ幾つか咲いており、初めて見るという保護者の方も多く、写真を撮るなどして、じっくり観察されていました。

また、お子さん達も積極的に虫探しを始めるようになり、脱皮中のクモや、日中は隠れていてあまり見るチャンスのないゴミムシの交尾など、私達もびっくりするような発見をしてくれました。



オオゴミムシの交尾

観察会の終わりに

8時半に管理棟前に戻り、それぞれ採集してきた昆虫を2つのテーブルに並べ、どんなものが見つかったか確認しました。自分の居たグループでは見られなかった昆虫もいて、お子さん達は熱心に容器の中の虫に見入っていました。その後、『虫合わせ』で情報を共有し、観察会を締めくくりました。

今回観察できた昆虫は55種（その他10種）でした。昨年と比べると、子どもたちに人気のカマキリが1匹も確認できなかったり、全体的に数が少なめだったことは残念ですが、時期的に、カブトムシやクワガタなどの夏の昆虫と、バッタ類を始めとする秋の昆虫と一緒に観察できた点で、楽しめたのではないかと思います。



2. 観察した昆虫・生き物種名一覧

チョウ目			バッタ目		
1	アカボシゴマダラ(幼虫)	タテハチョウ科	39	オンブバッタ	オンブバッタ科
2	クロノマチョウ	タテハチョウ科	40	ウマオイの仲間	キリギリス科
3	コジャノメ	タテハチョウ科	41	キリギリスの仲間	キリギリス科
4	スズメガの仲間(幼虫)	スズメガ科	42	クサキリ	キリギリス科
5	コシロシタバ	ヤガ科	43	ササキリ(幼虫)	キリギリス科
6	ヤガの仲間	ヤガ科	44	エンマコオロギ	コオロギ科
コウチュウ目			45	ツユムシの仲間	ツユムシ科
7	コハンミョウ	オサムシ科	46	コバネイナゴ	バッタ科
8	トウキョウヒメハンミョウ	オサムシ科	47	ショウリョウバッタ	バッタ科
9	オオゴミムシ	オサムシ科	48	ツチイナゴ(幼虫)	バッタ科
10	ゴモクムシの仲間	オサムシ科	49	アオマツムシ(鳴声)	マツムシ科
11	ゴミムシの仲間	オサムシ科	50	スズムシ(鳴声)	マツムシ科
12	ゴマフカミキリの仲間	カミキリムシ科	トンボ目		
13	クワガタ	クワガタムシ科	51	シオカラトンボ	トンボ科
14	ノコギリクワガタ	クワガタムシ科	52	ノシメトンボ	トンボ科
15	アオドウガネ	コガネムシ科	ナナフシ目		
16	コフキコガネ	コガネムシ科	53	ナナフシモドキ	ナナフシ科
17	カブトムシ	コガネムシ科	ゴキブリ目		
18	ピロウドコガネ	コガネムシ科	54	ゴキブリの仲間	ゴキブリ科
19	カナブン	コガネムシ科	ハサミムシ目		
20	コメツクムシの仲間	コメツクムシ科	55	ハサミムシの仲間	
21	オオヒラタシデムシ	シデムシ科	その他の生き物		
22	シロコブゾウムシ	ゾウムシ科	クモ目		
23	イチモンジカメノコハムシ	ハムシ科	56	ワカバグモ	カニグモ科
カメムシ目			57	ハシリグモの仲間	キシダグモ科
24	アオバハゴロモ	アオバハゴロモ科	58	コガネグモ	コガネグモ科
25	アメンボの仲間		59	ゴミグモ	コガネグモ科
26	クロスジアワフキムシ	アワフキムシ科	60	サツマノミダマシ	コガネグモ科
27	クサギカメムシ	カメムシ科	61	ナガコガネグモ	コガネグモ科
28	チャバネアオカメムシ	カメムシ科	62	コマチグモの仲間(産室)	コマチグモ科
29	カメムシの仲間		ザトウムシ目		
30	アブラゼミ	セミ科	63	ザトウムシの仲間	
31	ツクツクボウシ(鳴声、抜け殻)	セミ科	有肺目		
32	アミガサハゴロモ	ハゴロモ科	64	カタツムリの仲間	
33	スケバハゴロモ	ハゴロモ科	65	ニッポンマイマイ	オナジマイマイ科
34	ベッコウハゴロモ	ハゴロモ科			
ハチ目					
35	アリの仲間	アリ科			
36	オオスズメバチ	スズメバチ科			
37	コガタスズメバチ	スズメバチ科			
38	ヒメハラナガツチバチ	ツチバチ科			

☆ 種名が確認できなかったものは、“～の仲間”として加えましたが、2グループからの別々の観察記録を合わせた為、一部、種名の分かっているものと重複している可能性があります。

例) カタツムリの仲間 → ニッポンマイマイの可能性もあり。

☆ 科名が複数考えられるものは、記載していません。

T-KIDS 実施アンケートに寄せられたコメント

- 普通は行けない夜の森にみんなで行き、たくさんの虫を見れてとても楽しかったと言っています。少人数で、じっくりと体験できたように思います。また機会があれば参加したいです。
- 夜の森は子供には未知の世界だったようで、とても楽しかった、また行きたいと言っていました。こちらの公園は私も初めて来たので、思っていた以上に「森」で楽しめました。天気が良ければなのですが、夜空、星の観察も出来るといいなと思いました。
- スタッフの方々の知識が素晴らしく、子どもの昆虫や植物への興味をかき立てていただきました。ご準備も大変だったと思いますが、夏休みに貴重な経験をさせて頂き本当にありがとうございました。私の反省点としては、行きも帰りも先生の側のベストポジションをとってしまったので、帰りは他の方にお譲りするべきでした、気付かず申し訳ございませんでした。いただいたカブトムシも飽きずにずっと眺めています、ありがとうございました。

9 月理事会

(日時) 2021 年 9 月 25 日 (土) 13:00~16:00

(出席者) 岡本、上田、藤原、中川、萩原

1. 審議検討・確認事項

(1) 10/17 (日) 開催「きのご観察会」の準備状況について

- 募集定員の 20 人にて決定
- 当日のスタッフ募集中

(2) 11 月開催「里山の保全活動体験会」の準備状況

- チラシ作成：原稿案の見直し実施。HP に掲載している「NPO スケジュール」に関して、11 月分のみ、当会員へ配布している「活動計画」活動概要を補足説明として追記する。
- イベントの追記及び対象を中学生以下まで広げる場合の記載内容は、12 月以降の次回開催の里山活動体験会までに決定。
- 実施へ向けての確認事項・検討事項等は 10 月理事会にて審議。

(3) 11/14 (日) 開催の UDCK とのコラボ企画「秋の森の自然観察とワークショップ」

- ・ 8月理事会での決定内容にて、11月14日実施でUDCKとの擦り合わせ実施済み。
- ・ UDCK事務所受付～第一近隣公園から自然観察・葉っぱ収集スタート～こんぶくろ園路～管理棟前休憩テーブルにて葉っぱスタンプ。
- ・ 詳細内容は10月中までにUDCKと打ち合わせて確定し、具体的な広報活動も始める。

(4) 新型コロナ対応（まん延防止等重点措置（以下まん防）発令中でのイベント実施可否）

- ・ まん防は、ステージ3以上での宣言措置を基本としているが、国・県・市の動きも流動的であるので、10月8日（土）までに当園としての意志決定をする。

(5) 当園内のナラ枯れの調査状況及び被害木対応

- ・ 9/12実施した途中経過では、被害木（全てコナラ）が新たに30本近くあり、昨年と比べて数量的及び萎凋症状の程度に減少傾向は見られない。
- ・ 10月3日に残りの調査を実施し概要纏め、5日に予定している公園緑地課・森林総研と合同調査で、具体的な対策内容打合せ。

(6) 9/22の公園緑地課担当者との打合せ結果

- ・ 北側観察路の木材等の資材購入：今年度は予算対象外の為、1期分は若干の額を捻出する。2期以降の計画分は、翌年度以降の予算に織り込む事で検討。
- ・ ナラ枯れ被害木対応：公園緑地課より10月中旬までに状況報告あれば、本年度については予算外であるが、資金確保検討する。また来年度は前述の10月中旬までの報告書を基に予算獲得で動く予定。

・ こんぶくろ池公園植生管理計画関連事項：

アズマネザサ密生エリアの除去は、来年度予算確定後にNPOと実施計画策定。

大型バスの駐車場所は、正面入り口右側に4台加えて現駐車場に2台の計6台分を検討事項とし、来年度予算確保できた時点で詳細打合せとする。

(7) 「花暦」記載内容見直し要否

2019年7月理事会にて、現在発行している「花暦」の記載内容を当面継続する結論となっており、2年経過した段階で、見直し要否の審議を行った結果、現行通りとする結論に至った。

(8) 10～11月活動計画

- ・ 別紙、10月～11月活動計画の内容にて実施予定

(9) 追加事項（地金掘り東のズミ畑付近への季節限定通路）

地金掘り周辺のズミ・ジロボウエンゴサク・コバギボウシ・ワタラセツリフネソウ等の鑑賞エリアとして、来年の3月までに、調査班にて季節限定の試験簡易歩道を設ける。

場所は、現状の園路から地金掘り手前（ズミ畑傍のナラ枯れ切株付近）まで。

ズミ班と内容調整要。

2. 報告事項

千葉大生2名の「地域活動体験」授業
新型コロナ緊急事態宣言解除後に再開の予定

理事会の議事録は管理棟のファイルにて確認できます。

編集後記

コロナ感染の状況が日々変わる中で、今年もT-KIDSとの夏休みイベント「夜の森の昆虫観察会」の開催がぎりぎりまで危ぶまれましたが、なんとか無事に開催することができました。

子供向けのイベントが色々と中止となる中、少人数かつ屋外で行えるイベントとして、参加者の方には喜んでいただけたのではないかと思います。講師並びに準備等でお手伝いいただいた会員の皆さんありがとうございました。

9月に入りようやく感染者数も落ち着いて、10月から久しぶりに全国で緊急事態宣言と蔓延防止措置が全て解除されることとなりました。今月は「きのご観察会」、来月はUDCKとの「自然観察会とワークショップ」のイベントと、「里山保全活動体験会」も開催されます。

冬に向けて引き続きコロナ対策は一人一人の予防策をしっかりと行いながら、定例活動並びにイベントへのご協力よろしく申し上げます。（萩原秀夫）